



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2005年 7月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

清子内親王殿下(紀宮さま)のお成りを賜り

第9回日本太鼓チャリティコンサートを開催



(イギリス大使夫人、塩見理事長とご歓談される清子内親王殿下)

第9回日本太鼓チャリティコンサートが5月18日に東京都港区・草月ホールで開催されました。

このコンサートは日本財団の助成事業として、当財団が、R.I.ジャパン(国際難民奉仕会・会長アン・アルカイアー氏)の共催を得て開催したものです。今回は世界の難民救済のために、各国で活動しているNGOに、イベントの収益金や寄付金を送金されているR.I.ジャパンの活動を支援するために実施し、会場にはその活動内容を紹介するパネルが展示され、多くの方々に見ていただきました。

清子内親王殿下のお成りを賜り、各国の在日大使、政・官・財界及び各分野で活躍されている300名を超える方々にご出席いただきました。

開演に先立ち、主催者を代表し、塩見理事長、共催者を代表して納賀R.I.ジャパン副会長より挨拶いただき、当財団加盟820団体から選ばれた5団体に加え、第7回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チームと昨年(社)石川県太鼓連盟主催で行われた第1回シニア太鼓大会において最優秀賞を獲得したチームの合計7団体による演奏が行われました。

まず、東京都「みやらび太鼓研究会」の女性らしいしなやかな小気味よい演奏に始まり、群馬県「上州藤岡上杉管領太鼓」の、戦国武将の力強さを表現した男らしい演奏。続いて、全身を使って撥を打ち込む勇壮な打法の福岡県「川筋太鼓保存会」。石川県「輪島祭り太鼓」は、昨年の第1回シニア太鼓大会において最優秀賞を獲得した、井戸氏(91歳)と小坂氏(80歳)のペアで、熟練の技を披露しました。

おかめとひよっとこの面をかぶって嫁取り合戦の様子を演じた石川県「城山太鼓保存会」、釧路の短い夏の祭りを躍動感あふれる太鼓と笛で表現した「北海道くしろ蝦夷太鼓」。ラストは、第7回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝した石川県「手取亢龍 若鮎組」が地域に伝わる虫送り太鼓を演奏。優勝チームの実力を発揮した、若い力みなぎる演奏でした。

どのチームに対しても、紀宮さまをはじめ、観客席から盛大な拍手が起こり大変な好評を博しました。

なお、出席された皆様のご協力により過去最高額の1,018,000円をR.I.ジャパンに寄贈することができました。

当日は、紀宮さまのご婚儀の日取り発表と重なり、多くのマスコミが詰め掛け、テレビ、週刊誌等にお成りの様子が報道されました。



(フィナーレ)

<出演団体>

みやらび太鼓研究会(東京都)
上州藤岡上杉管領太鼓(群馬県)
川筋太鼓保存会(福岡県)
輪島祭り太鼓(石川県)
城山太鼓保存会(石川県)
北海道くしろ蝦夷太鼓(北海道)
手取亢龍「若鮎組」(石川県)

* 第7回日本太鼓ジュニアコンクール優勝団体

～愛・地球博 ジャパンウィーク～

日本太鼓の心を打つ！「叩」

3,000名の観客を集め、
ジュニア歴代優勝団体による夢の共演

愛・地球博会場内のEXPOドームにおいて、7月6日から12日に渡って、国際的なジャズサックス奏者渡辺貞夫氏の総合監督のもと、日本の伝統芸能を紹介する「ジャパンウィーク」が開催されました。

7日～10日の昼の部は「奏」「踊」「叩」「集」のテーマで構成され、9日の「叩」に「日本太鼓の心を打つ！」と題して日本太鼓ジュニアコンクール歴代優勝団体が一堂に会し演奏を披露しました。

霧島九面太鼓郷花(鹿児島県)が、たいまつを手にして登場したのに続き、オープニングを飾ったのは、橘太鼓響座(宮崎県)。岩切響一君(12歳)の大人顔負けの大太鼓を中心とした演奏に、沢山の拍手が沸き起こりました。

続いて、歴代優勝団体による演奏が、今年の優勝チームの後、第1回優勝チームから順番に披露され、それぞれ日本一に輝いた実力を遺憾なく発揮しました。既にジュニアを卒業したメンバーも応援に駆けつけ、後輩を客席から見守っている姿が印象的でした。

各チームの演奏の合間に、塩見理事長からメンバーにインタビューがありました。

全チームの演奏が終わり、塩見理事長、小口副会長とゲストの高田万由子さんによる感想の最中、突然客席から渡辺貞夫氏が登場し、観客から歓声が沸きあがりました。

フィナーレは、全出演者がステージに一堂に集い、小口副会長がこれまで作曲して下さったジュニアコンクール7回分の課題曲を繋げてアレンジした「平和の響」を合同演奏し、100名の太鼓の音が会場一杯に轟きました。



(満席となった客席)



(フィナーレの合同演奏)

<出演団体>

- ・オープニング
 - 霧島九面太鼓郷花(鹿児島県)*たいまつ隊
 - 橘太鼓響座(宮崎県)
- ・ジュニア歴代優勝チーム(優勝順1999年～)
 - 共栄太鼓 風雅(石川県)
 - 天城連峰太鼓(静岡県)
 - ゆふいん源流少年隊(大分県)
 - 山川ツマベニ少年太鼓(鹿児島県)
 - 信濃国松川響岳太鼓子供会(長野県)
 - 華太鼓かんなの会「ふじ組」(宮崎県)
 - 手取亢龍「若鮎組」(石川県)
- ・フィナーレ
 - 小口副会長とジュニア全チームの合同演奏

読売新聞
2005年(平成)17年6月10日 金曜日

韓国「日本不信」9割
日本は信頼6割 深まる溝
本社・韓国日报社 共同世論調査

市場化
読者層を拡大し、前年の増八割増の発行部数を達成した。読者のニーズに応じた内容の充実と、デジタル化による集客力の向上が、読者の信頼を高め、購読率を押し上げた。読者のニーズに応じた内容の充実と、デジタル化による集客力の向上が、読者の信頼を高め、購読率を押し上げた。

万博情報
31分犯(は不可能2.4) 州路ト三夕の戦路(3) 15歳 戦争語り部(3) 罪状認める方針(3) 輝「にぎやかな天地」(3) 演「空より轟く」(3) 万博情報(3) 読売新聞(3) 万博情報(3) 読売新聞(3)

日本は信頼6割 深まる溝
韓国日报社の調査によると、韓国人の日本に対する信頼度は、前年より10ポイント以上低下した。一方、日本人の韓国に対する信頼度は、前年より10ポイント以上低下した。この結果は、両国間の関係がますます悪化していることを示している。

出陣したのは、日本太鼓ジュニアコンクールの優勝チームが、全11回の優勝チームと、6チームの6～16歳の子供たち。神輿の「エイサー太鼓」を取り入れた演奏など、観客から大きな拍手が送られた。観客から大きな拍手が送られた。

(読売新聞の一面に大きく掲載される)

渡辺貞夫リズムワールド ～霧島九面太鼓^{はるか}郷花(鹿児島)が出演～

7日～12日の夜の部に、世界の子供ども達を集めて行われた「リズムワールド」に日本代表として霧島九面太鼓郷花が出演しました。

今年の第7回日本太鼓ジュニアコンクールで審査員を務められた渡辺貞夫氏が、特別賞を受賞した霧島九面太鼓女子部を大抜擢して今回の出演が決まり、チームはこれを機に、名前を「郷花」と改めました。

EXPOドームのアリーナで繰り広げられる各チームのパフォーマンスを、観客が自由に観て回ることができる「音市場」で始まりました。赤坂泰彦氏の司会進行のもと、渡辺貞夫氏の紹介があり、全員によるセッションと大合唱の後、各チームの演奏に移りました。ポルトガルのパーカッション、アメリカのゴスペルに続いて郷花の出番。今年で郷花を卒業する高校3年生3人組による「おはら節」は、始めてから二ヶ月経っていないとは信じがたいほどの腕前の笛と、息の合った太鼓の演奏でした。続いて全員で演奏した「深山^{みやま}の響き」は、3,000名の観客を前に堂々とした演奏でした。

続いてブラジル、セネガルのパーカッションと踊りがあり、最後に渡辺氏作曲の「Share the world～こころつないで～」を、渡辺氏のサクソを中心、歌詞を手話で表現するボディランゲージと共に150人が大合唱し、観客と出演者も一体となってリズムに心と体を委ね、会場を揺らしました。

音市場とセッションには、郷花のお姉さんチーム「和奏^{わかかな}」も参加し、郷花を心強くサポートしました。

東京での記者発表、浜松での3日間に渡る合同リハーサル、8回の本番を経て、11日間の遠征で外国のジュニアと仲良くなったメンバーは、言葉の壁を超え音楽で心を通わせ、世界のナベサダから頂いたこの機会に、沢山の宝物を見つけたようでした。

*今回の公演が大変好評であったため、来たる8月17日、18日に再びEXPOドームにおいて開催される、渡辺貞夫氏のプロデュースによる「地球サウンド」と題した公演に郷花が出演します。

*8月20日、21日に鹿児島県で行われる「霧島高原太鼓まつり」には、特に仲良くなったセネガルのチームを招待し、友情出演することが決定しました。

今年で卒業となる、メンバー3名から感想が寄せられましたのでご紹介致します。

リーダー 池田 好香(高3)

今回、愛・地球博「渡辺貞夫リズムワールド」に参加することができ、とても貴重な体験をすることが

できました。

東京での初めての顔合わせでは、いろんな国の人と会うことができ、とても新鮮な気持ちでいっぱいでした。すると、他の国の人たちから握手をしたり、名前を教えてくれたりと、緊張がやわらぎました。そして場所を浜松に移し、合同リハーサルを二日間行いました。リハーサルでは、自分達がやってきた音の大きさでは、他の音が聞こえにくくなってしまったり、腕をしっかり伸ばすと音が遅れる等、音を合わせるのがとても難しかったです。でも、渡辺さんが、「間違ってもいいから。とにかく楽しんで。」と言ってもらえたので気持ちが楽になりました。

そして本番前日、私たちは他の国の人たちと一緒に、オープニングイベントを見学しました。「どんな風になるんだろう。盛り上がるのかなあ」と思っていたのですが、イベントが始まるとものすごく盛り上がり、舞台にみんなで上がって踊りました。

すごく楽しかったので、次の日からの本番が楽しみにになりました。そして、本番一日目は緊張したのですが、だんだん曲が進むにつれ楽しくなってきました。自分達が客席まで行ったりして、お客さんものってくれて自分達も、もっと楽しくなりました。

楽しい演奏が一日、また一日と終わっていくと、淋しい気持ちになりました。

そして最後の日。残り二曲位になった時、今までの楽しかった思い出が頭の中に思い出されて、涙が溢れてきました。ふと前を見ると、お客さんも泣いており、うれしいと同時にもっと淋しくなりました。

今回、太鼓の面でも団体生活の面でも色々なことを学ぶことができたので、これからの活動に生かしていけるように頑張っていきたいと思います。

若松 あゆみ(高3)

今回、愛・地球博と言う大きな舞台に立てて本当にいい経験になりました。出発する前までは不安と緊張でいっぱいでしたが、いざ行ってみれば、アメリカの子どもたちは積極的に話しかけてくれて、いつも私たちに元気をくれました。セネガルの人達は、体調が悪くて練習を休んでいると、すごく心配してくれて、お祈りのようなことをしてくれました。純粋でとても優しい心の方達でした。ブラジルの方達はまさに太陽のような熱気が毎日メラメラしていました。ポルトガルの人も盛り上げるのが上手で一緒に踊ったり楽しかったです。

このように、国によって性格も生活のリズムも異なっていますが、帰る時には深い絆が生まれていました。演奏を重ねていくごとに他の国のリズムも覚え、どうやったら会場が一体になれるのかも分かっていきました。お客さんも笑顔いっぱい手を叩いてみたり、ジャンプしたり、踊ったり…本当にそれ

がすごく嬉しかったです。でも楽しいことばかりではなく泣いたり悩んだりする日々もありました。他の国とのリズム感の違いだったり、普通私たちが基本としている動きがリズムを遅くさせたり、色々な問題点があり、正直すごく戸惑ってしまいました。しかし私たちにはお姉さんチーム和奏(わかな)という心強い味方がいたので一緒に悩んでくれて、一緒に解決してくれました。おかげで本番は自分達の良さが出た演奏ができました。

こんないい経験をさせて下さった渡辺貞夫さんをはじめ、スタッフの皆さん、家族や応援をしてくださった人々、また色々な出会いに感謝しています。この経験をこれからに生かして頑張っていきます。



(出演者と観客が一体となったフィナーレ)

深川 ななえ(高3)

私は愛・地球博へ行く前、すごく楽しみにしていた事がありました。それはアメリカ、ポルトガル、セネガル、ブラジルの人たちと会うことです。言葉が通じなくても、なんとなくかなと思っていました。初日、みんなと顔合わせをした時、緊張してあまり話すことができませんでした。しかし何日かたつにつれて、言葉が通じなくても仲良くなることができました。太鼓の音も自然に合うようになりました。リズムワールド本番ではリハーサルにはない盛り上がりが見えるぐらいありました。お客様も私たちと一緒に踊ってくれて、本当に年齢などに関係なく、会場みんなが一体になりました。また自分たちの曲も息がぴったり合うようになりました。みんな本当に自然な笑顔でいい舞台になったと思います。私を含め三人での「おはら節」はリズムワールドが初舞台でした。緊張しながらも、笑顔で楽しく演奏することができました。それは「大丈夫だよ、できる」と励ましてくれた人たちがいたからです。

セネガルの人たちも言葉は通じなくても、手を握りしめてくれたりしました。みんなの存在を改めて大きく感じました。本当にすごい経験をさせていただきました。精神面でも少しは成長したなあと思います。英語がすごく嫌いだったのに好きになり、もっと勉強する気が出てきました。

最後の日はアメリカ、セネガル、ポルトガル、ブ

ラジルそして渡辺さんと離れるのがとても寂しく、みんな涙が止まりませんでした。絶対に忘れないものをたくさんいただきました。また、同じメンバーで集まりたいとすごく思います。私の心に一生残る11日間でした。

陸前高田市・全国太鼓フェスティバル実行委員会がサントリー地域文化賞を受賞

岩手県陸前高田市の全国太鼓フェスティバル実行委員会(及川修一会長)が、伝統文化の保存、継承に励む全国の団体などを表彰するサントリー地域文化賞に選ばれ、8月5日に授賞式が行われました。

全国太鼓フェスティバルは1989年から始まり、地域に伝わるけんか七夕太鼓を活用した市民一体型のイベントとして全国に多くのファンを増やしています。

実行委員会は10代から70代の市民有志100名で構成され、フェスティバル開催のみならず、道の駅・高田松原に併設する、太鼓の練習施設「通称：太鼓館」の建設構想も、そこから生まれました。

今後益々のご活躍を期待いたします。

今年の開催日程は下記のとおりです。

- 10月15日(土) 午後6時から8時30分
(キャピタルホテル1000)
- 16日(日) 午前10時から午後3時
(陸前高田市民体育館)

ゆふいん源流太鼓が無形文化財に

ゆふいん源流太鼓(大分県湯布院町・代表長谷川義氏)が湯布院町の無形文化財に認定されました。

これは、1979年発足以来、地元湯布院をはじめとする国内外における年間100回を超える公演を26年間に渡って行われた実績が高く評価されたものです。将来の伝統太鼓として今後益々のご活躍を期待いたします。



(長谷川代表と佐藤湯布院町長)

日本太鼓と学校教育②

今回は、保育園の園長として保育に太鼓を取り入れ、今では園児のみならず、子どもから大人まで幅広く、太鼓指導を精力的に行っている遠藤一子氏(岩手県・松川一の宮太鼓会長)より、寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

「子ども達に太鼓指導をしていく中で」

松川一の宮太鼓 会長 遠藤 一子



(子どもチーム花組の演奏風景)

保育園児に太鼓の指導を始めたのは昭和53年のことです。待ちに待った保育園の園庭が出来、運動会を開催する時、子ども達が太鼓を演奏してお祝いしました。大変好評で、次年度も我が子に太鼓を叩かせて欲しいと言われ、毎年演奏するようになりました。とは言え、太鼓は地域の盆踊りの太鼓をお借りし、曲は私が作曲した曲ですので、大したことは出来ていなかったと思いますが、太鼓の響きが多くの人々の心を揺り動かしたのだと思います。

それから、毎年運動会の開会式に太鼓の演奏を年長児がするようになり、太鼓が保育課題になり、保育士が太鼓を演奏しなくては子どもに指導が出来ないので、職員がみんなで太鼓を練習し、運動会の前のお祭りで子ども達に見せて、それから、子ども達に太鼓を指導していきました。

しかし、何か物足りなく心に響く曲になりません。悩んでばかりいてもしょうがないので太鼓の研修会をしようと思っていたとき、テレビに出演していた同じ県の山口太鼓さんを見てこれだと思い、会長の佐々木清さんに研修会の指導をお願い致しました。

それが山口太鼓との出会いでした。とても熱心に指導してくれました。山口太鼓の生演奏を見て、とっても感動し、私たちもあの様になりたいと、太鼓同好会を作りました。昭和61年のことです。

同じ年の10月に松川一の宮太鼓として会を発足し20年間活動してきました。今日まで続けてこられたのは山口太鼓さんとの運命的な出会いと、多くの太鼓仲間との出会いがあったお陰です。心から感謝致しております。

松川一の宮太鼓を結成すると同時に子ども達の指導をするようになりました。週一回水曜日の夕方は子ども達、夜は大人達が練習をしました。多くの子どもが入会し、中学生は大人と一緒に練習するようになり、学年によって子ども達を2チームに分けたりして、太鼓の指導に当たってきました。太鼓の指導は私ともう1人大人の会員が当たりました。最初はあまり細かいことは言わずとにかく楽しみに来てくれるように、年一度はプールに連れて行ったり、大会で優勝したときはバス旅行に連れて行ったりしました。

私たちは地域の神社や観音様の曲を創作し奉納しました。それがきっかけで毎年太鼓の奉納をするようになり、子ども達もお祭りで太鼓の奉納がしたいと張り切って練習するようになりました。今年で4回になる岩手県の日本太鼓ジュニアコンクール予選も子ども達の励みになっています。第7回の日本太鼓ジュニアコンクールに岩手県を代表して松川一の宮太鼓花組が出演しましたが、大変大きな影響を受けてきました。のびのびと楽しそうに演奏する同年代の太鼓の響きが心に突き刺さったようでした。

よし、自分もその境地を切り開きたいと思ったようです。練習は保育園を開放してもらいそこで行っておりますが、現在では週3日練習しています。一つのことを一生懸命やり通していく中で、何かをつかんで成長して行く子ども達が、実は私たちの太鼓の励みであり、継続の力であったように思えてならない今日この頃です。これからも、会員一同力を合わせて子ども達の指導に当たっていきたいと思っています。



(スマトラ沖地震支援チャリティーコンサートでの団員一同)

兵庫、栃木で講習会を開催

＜第25回日本太鼓支部講習会（兵庫）＞

5月21・22日、兵庫県支部主催による支部講習会が新宮町立総合福祉会館で行われ、5・4級基本講座に41名が参加しました。

開会式は、児玉支部長の挨拶で始まり、続いて先日3級公認指導員に昇級した吉岡賢次氏の認定式を行いました。これは兵庫県における初の公認指導員の誕生であり、兵庫県支部の益々の発展が期待されます。

二日間の講習後、希望者による検定試験が行われ、認定証とバッジを受け取った合格者達は、厳しい練習をやりとげた達成感と、更に上級を目指して頑張る決意を新たにしました。

○基本講座 講師

総合指導 古屋 邦夫氏

4級基本講座 若山 雷門氏

5級基本講座 松枝 明美氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

4級検定 10名受験 10名認定

5級検定 30名受験 30名認定



（開会式で挨拶する児玉支部長）

現在の公認指導員・技術認定員数は以下のとおりです。

＜公認指導員＞

特別2名、1級22名、2級55名、

3級108名 総数187名

＜技術認定員＞

1級58名、2級106名、3級427名、

4級714名、5級2,828名 総数4,133名

＜第23回日本太鼓全国講習会（栃木）＞

6月25・26日、全国講習会がウエルサンピア栃木において行われました。今回は、全国、支部講習会ともに開催経験のある栃木県支部が主管となり、地元栃木をはじめ全国21都府県から228名が参加しました。開会式は、財団を代表して塩見理事長、栃木県支部から片庭支部長が挨拶、続いて鹿沼市鈴木収入役より祝辞がありました。

晴天に恵まれ、30℃を越える真夏日となりましたが、二日間に及ぶ講習を修了した受講生からは、「実技だけでなく、太鼓の歴史や種類なども一から学ぶことができた」「5年太鼓をやっているが、基本を習って、目からうろこが落ちる思いだった」「全国から集まった人達と交流でき、友達ができた」「ストレスが解消された」などの感想がありました。

○専門講座 講師

助六太鼓講座 小林 正道氏

大太鼓講座 龍 連山氏

尾張新次郎太鼓講座 安井 富氏

○基本講座 講師

総合指導 古屋 邦夫氏

3級基本講座 安江 信寿氏

4級基本講座 渡辺徳太郎氏

5級基本講座 松枝 明美氏 鈴木 孝喜氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定 32名受験 10名認定（22名合格）

2級検定 40名受験 14名認定（24名合格）

3級検定 20名受験 20名認定

4級検定 30名受験 28名認定

5級検定 51名受験 51名認定



（開会式で挨拶する片庭支部長）

● 今後の講習会の予定 ●

11月12・13日（土日） 第24回日本太鼓全国講習会（富山県砺波市・寺尾温泉）

2月25・26日（土日） 第25回日本太鼓全国講習会（大分県湯布院町）

理事会・評議員会を開催

第16回理事会並びに第15回評議員会が6月17日に開催され、次の事項が審議、承認されました。

<評議員会>

「2004年度事業及び決算」を報告し了承された。

<理事会>

「2004年度事業及び決算」を報告し了承された。

「第5期評議員の選任について」

任期満了に伴う第5期評議員の選任について、三木評議員から就任辞退の申し出があった他は現評議員14名の重任と新たに3名の候補者を含め17名の候補者名が挙がっている旨を説明した。全員異議無く可決、了承された。新任の評議員については次のとおり。

- ・渡辺貞夫 音楽家
- ・大竹英雄 囲碁棋士(名誉碁聖)
- ・佐藤淳子 ライフ・プランニング・クリニック副所長

～新たに評議員3名を選任～

第5期評議員名簿(五十音順)

伊藤 雅俊	(株)イトーヨーカ堂名誉会長
大竹 英雄	囲碁棋士(名誉碁聖)
大町陽一郎	東京フィルハーモニー交響楽団専任指揮者
岡田 知之	洗足学園音楽大学教授
北村 汎	元・英国大使
小泉 武夫	東京農業大学教授
佐藤 淳子	ライフ・プランニング・クリニック副所長
河野 和義	気仙町けんか七夕保存会会長・岩手県支部顧問
浜田麻記子	(株)P.R.D会長
深沢登志夫	山梨県議会議員・山梨県支部長
富治林 浩	大和の響き「京」代表・京都府支部長
堀田 豊和	越中大島太鼓振興会会長・富山県支部相談役
松本源之助	江戸里神楽土師流家元・東京都支部長
宮崎 義政	銚子はね太鼓保存会会長・千葉県支部長
吉田 博一	慶応義塾大学教授
脇元 勝己	霧島九面太鼓保存会会長・鹿児島県支部名誉会長
渡辺 貞夫	音楽家

日本太鼓が演奏協力

ユニセフ子どもの祭典

5月1日、東京都両国・国技館で開催された「ユニセフ子どもの祭典」において、のさか太鼓(千葉県)が出演しました。

これは、(財)日本ユニセフ協会創立50周年記念行事として、皇太子殿下・同妃殿下のご臨席のもとで行われ、第3部「子どもの祭典」のオープニングに出演しました。

ジュニアコンクールには人数制限のため出場できなかったメンバーもこの日は晴れ舞台に登場し、オープニングに相応しく若さ溢れる元気一杯の演奏を披露しました。



(のさか太鼓)

第50回G1江戸川大賞

6月2日、東京都・江戸川競艇場において「第50回G1江戸川大賞」が開催され、天邪鬼(東京都)が出演しました。開会式に先立ち、威勢の良い撥さばきと江戸の粋を感じさせる演奏で、大勢のお客様を魅了しました。しかし残念なことにその後天気が崩れ、午後の公演が中止となり、「もっと観たかったのに残念だ」と声をかけてくださったお客様もいました。



(天邪鬼)

事務局だより

日本財団・曾野会長が交代

当財団が助成を受けている日本財団の曾野綾子会長が、1999年12月以来、9年7ヵ月にわたって務められてきた会長職を、本年6月30日の任期満了をもって辞任されました。

後任の会長には、理事長を務められていた笹川陽平氏が、理事長には常務理事を務められていた尾形武寿氏が選任され、7月1日付で就任されました。

第3回富岳会「ピュア・アート・コレクション」

6月27日～7月1日、日本財団ビル1階において、静岡県御殿場市にある、日本太鼓を療育に取り入れている社会福祉法人富岳会を利用する知的障害者の作品30点の絵画展が開催されました。障害がある方でも生活自立と社会自立ができるように、30年程前より取り入れている「絵画療育プログラム」での作品が展示され、豊かな感情があふれる絵画を多くの方にご覧いただきました。



個人情報保護に関する基本方針

財団法人日本太鼓連盟は、個人情報の保護に関する法律その他の関連法令・ガイドライン等を遵守して個人情報を適正に取り扱うとともに、安全管理について適切な措置を講じるため、以下のとおり個人情報保護方針を定めました。またこの方針を実効あるものにするため役員職員への指導を徹底いたします。

1. 個人情報の取得目的

個人情報の取得にあたっては、つぎの目的で取得し、本人の同意を得た上で行ないます。

- ① 会員登録およびライセンス登録、各研修会事務手続きなどに関する諸連絡、各種事業などへのご案内
- ② 当財団のホームページおよび会員限定配布の会員名簿への掲載

2. 個人情報の利用

取得した個人情報は、あらかじめ明示した利用目的の範囲内で利用します。また、個人情報を第三者に委託する場合は、本人の同意を得た上で、目的達成に必要な利用の範囲内で提供し、秘密を保持させるために適正な監督を行います。

3. 法令遵守のための取り組みの維持及び継続的改善

個人情報に関する法令と規範を遵守し、個人情報を保護するための方針、体制、計画、実施については法令の改正、社会環境・IT環境の変化等に応じて継続的に見直します。

4. 個人情報の安全管理

当財団は、本方針を実施するに当たり、情報の漏洩、紛失、改ざん等がないように適正に管理するための実施体制を整備します。

5. 個人情報に関するお問い合わせ

当財団が取得した自己の個人情報の開示、訂正、削除等のお問い合わせは下記窓口までご連絡下さい。

名称 財団法人 日本太鼓連盟 総務部総務課
所在地 東京都港区赤坂1-2-2
電話 03-6229-5577

*この方針に対応して、コンピューターへの外部アクセス防止等のセキュリティシステムを新たに導入致しました。